
馬鹿の紙一重向こうに天才はあるッ！！

猫小判

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

馬鹿の紙一重向こうに天才はあるッ！！

【Nコード】

N3575B

【作者名】

猫小判

【あらすじ】

同じクラスのキングオブバカである彼は、後ろの席のわたしにいきなり力説し出した。

(前書き)

これはフィクションです。

わたしの前に座る彼は、馬鹿げたことを高らかに宣言した。

「俺はこれから馬鹿の道をひた走るぜ!!」

わたしは呆れて、小さくため息をつく。

「大丈夫よ。あんたはもう馬鹿の道の終わりにいるから」

それを聞いた彼は心外だ、とでもいうようにふん、と鼻を鳴らした。

「それは馬鹿を極めた者達に失礼だぞ!」

わたしはやれやれと、小さく肩をすくめた。

「あー、ハイハイ。ソーデスネ」

彼はわたしの棒読みには何も触れず、握り拳を掲げて語り出した。

「天才は馬鹿と紙一重、っていう言葉があるだろ?」

わたしは至極適当に相づちを打つ。

「ソーダネ」

彼はそれで満足なのか、構わず言葉を続ける。

「ということは、天才の紙一重向こうは馬鹿だつてことだろ？」

わたしは頼杖について何となく頷いておく。

「ソーカモネ」

彼はわたしの適当さなど気にせず力説する。

「つまりは、だ。馬鹿の紙一重向こうも天才つてことだよな」

わたしは頷いて、彼の言葉の意味を噛み締めて、目を剥いた。

「ソーデス……ってはいい！？」

わたしの反応を余所に、彼は熱弁を奮う。

「だから俺は馬鹿の道を突き進み、その紙一重先の天才を目指すッ
！！」

彼が天に拳をぐっ、と突き上げてフィニッシュを飾ったところで、
わたしは彼の考えに異議を唱えた。

「それはおかしいでしょ。天才過ぎる天才は考えが進み過ぎて馬鹿
に見える、っていうのが『天才は馬鹿と紙一重』の意味であつて、
その間にある紙は天才側からの一方通行じゃないの？」

わたしの反論を彼は鼻で笑い飛ばした。

「だから君は良くも悪くも普通、凡人なんだ」

わたしは憤慨して、ガラにもなく大声を出してしまった。

「馬鹿のあんたに言われたくない！」

彼はニヤリとニヒルな笑みを浮かべた。

「俺にとっては馬鹿が最高の褒め言葉さ。普通に満足する人間には到底到達出来ない極みに立ってるってことだからな」

わたしはあきれかえって、大きくため息をついた。

「ほんと他人のことなのに、あんたの将来を心配しちゃうわ」

彼は声を上げて笑う。

「心配することはない。俺の未来は馬鹿のままか、馬鹿のままなのに周りの人間から天才だってもてはやされるかのどちらかでしかないからな」

もしかしてこいつ、本当の大物なのかも。わたしの頭を、そんな馬鹿げた考えよぎったのだった。

会社からの帰り道、ふと思い出したのは本当に懐かしい思い出。まあ、まだあれから十年しか経っていないのだけれど。

ちなみに馬鹿の道を爆進するといっていた彼は、何を間違えたのか企業を起こして大成功を納めていた。彼は、本当に馬鹿の紙一重向こうの天才になってしまったのだ。

わたしは明かりのついた我が家のドアを開く。

「だだいま」

居間の方からどたと慌ただしく、今さっき思い出していた彼が姿を現した。

「お帰り。今日はどうする？ ご飯？ お風呂？ それとも……俺？」

「ば、バカッ！！」

天才と呼ばれるようになった彼は、妻のわたしから言わせれば、やっぱり大馬鹿者だった。

――終――

（後書き）

勢いで書いてしまいました。ちなみに『馬鹿は天才と紙一重』が今年の僕の座右の銘です（笑）後世に名を残すには、よほどの天才になるか、よほどの馬鹿になるしか無いと思っている猫小判でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3575b/>

馬鹿の紙一重向こうに天才はあるッ！！

2010年12月1日08時52分発行